

『カミのおぼしめし』

作…岩本憲嗣

■登場人物

下田憂（しもだうい・女・20歳・研究員）

近藤衛丞（こんどうえいすけ・男・27歳・鳥取藩士）

○現代・憂の研究所

非常事態を報せるアラート音。あちこちで機械のショートする音。
大きなお釜のような機会に乗った憂が書類をぶちまける。

憂「最悪！また失敗だよ！分あつてる、安定装置がネックなんだろう？つってもあの複雑なのをどうやったらあのスペースに入れ込める！？ああもう！！（スパナで計器を叩く）……つて、ちよつとなんで止まらないワケ、はああああ！！？」

大きな爆発の後、研究所から大きな機械は姿を消している。

○暗闇

火の燃えるパチパチという音が聴こえてくる。

憂「……火？ひよつとして燃えて！？」

○幕末・衛丞の家（夜）

憂が咄嗟に目を覚ますとそこには囲炉裏。

衛丞「目覚められましたか？」

憂「え？誰だよお前！？」

衛丞「驚かれましたか。拙者は近藤衛丞。鳥取藩の藩士にございます……一応は」
憂「（自分の服装に気づいて）うわっ？服は？何この着物？」

衛丞「その！ずぶ濡れでした故、拙者の。ごご心配召されるな。出来得る限り、お姿は見ぬように……」

憂「待つて待つて……ずぶ濡れ？私が？」

衛丞「いかにも、裏の溜池に急に落ちて来られて……」

憂「羽衣3号は？タイムマシン！デカくて丸くて……」

衛丞「お釜のような？でしたらまだ溜池に」

憂「良かったあ」

衛丞「時に……エゲレス人であられましたか？」

憂「え？誰？……私？ないない、この顔だよ。名前下田憂だよ。バリバリに日本人でしょ」

衛丞「しかし今エゲレス語を話された。タイムなんとかと」

憂「ああそれは……まあ説明しても分からないから」

衛丞「そう仰らず御教示願いたい。エゲレス語が少しでもお分かりであればどうかお力をお借りしたいのです！！」

急に憂に迫る衛丞。

憂「は？……あ、はい」

○裏の溜池

憂が羽衣3号を修理している。

そこに文献を抱えた衛丞がやってくる。

衛丞「憂殿！ご教示お願いしたくございます……！！」

憂「おう、って今日ももうそんな時間か」

憂が羽衣3号から降りてくる。衛丞の文献に目を通す。

憂「へえお前頭いいな、大方上手く訳せてると思うぞ」

衛丞「誠でしょうか！いやはや、流石は憂殿！しかし……まさか天からエゲレス語の分かる御方が降って来られようとは、まさに神の思し召しとしか思えませぬ」

憂「にしてもお前の訳してるこの本は何なんだ？」

衛丞「西洋の製紙に関する書物にございます」

憂「製紙……って紙を作る？あんた侍だろ、なんの関係あるわけ」

衛丞「民が為にございます。特産たる因州和紙は我が藩が誇り。丈夫で書きやすく、その書は百年……否、千年とて持つ自負さえます。されど以前長崎に出向いた際に西洋の紙を目にしまして……学ぶべきものがあると痛感致しました」

憂「お、幕末あるあるだ」

衛丞「故に、人づてに文献をかき集めたのですが如何せんすべてエゲレスの書でありまして。内容が全く分からない。外に学びに行こうにも時期が悪く……」

憂「時期？」

衛丞「我が藩は殿を御三家より頂いております、されど長州藩とも親しい関係にございます。それ故に佐幕だ討幕だと……」

憂「揉めてるワケだ」

衛丞「そのような状況下、かような学び自体を忌み嫌う者達も多くおります。ですので拙者もこのような山深き場所に身を隠し目立たぬように……」

憂「勉強するだけでも一苦勞ってこつたな……（書を指して）これも因州和紙なんだろう」

衛「いかにも」

憂「……よく見ると綺麗だな。こう繊維が絡み合ってるのが模様みたいで……ん？待てよ……それ……それだ！！そうだよ、これなら上手く行く！」

衛丞「憂殿！？」

憂「紙くれよ！あと書くもの、思いついたんだよ早く！！」

衛「わ、わわわわわ分かりました！！」

衛丞が和紙と筆を持ってくる。憂、一心不乱に何かを描き出す。

○溜池（夜）

暗闇の中で羽衣3号の明りが美しく輝いている。

衛丞「不可思議だ。まるで蛍火のように輝いて……」

憂「驚くのはまだ早いぞ。この後もつと綺麗なのを見せてやる。10日も世話になったお礼」

衛丞「礼だなどんでもない。それは拙者の方こそ、憂殿のお陰で翻訳も終わりました」

憂「こつちも、お前とお前の大切にする因州和紙のお陰で答えがみつかった」

憂、衛丞の書簡を渡す。

憂「頼みがある。こいつをそうだな……その木の根元に埋めておいてくれないか」

衛丞「されど、これは憂殿が必死に書かれていた……」

憂「持つて行きたいのは山々なんだけどな、異なる時代間のモノの移動はタイムパラドックスのリスクがある。だから裏技。お前言ってたろ、因州和紙は百年、否、」

衛丞「千年とて……」

憂「だから帰ったらあつちで受け取る」

憂が羽衣3号に乗り込む。

衛丞「憂殿！！……改めて……改めて」

憂「有難う！！悪い、起動まで時間がないんだ。言いたいことあったらそいつと一緒に埋め

といてくれ。楽しみにしてる」

衛丞「あい分かり申した！！」

羽衣3号のkokopittoが閉まる。そのまま宙に浮くと眩い輝き。
輝くの後に羽衣3号の姿はない。

衛丞「……なんと。ははははは、そうか、神……否、まるで天女が如き」

衛丞が書簡をみつめる。

○現代・溜池の畔。

木の根元を掘り返す憂い。

土の中から木箱が出てくる。木箱を開けると書簡と分厚い紙束。

憂「どんだけだよ。はは、ははははははははは」

【終】

※ご利用上の注意※

- ・ 本脚本はどなたでも無料にてご利用いただけます。
- ・ ご利用に当たつての改変などに制限は設けておりません。皆様のご都合に応じて自由に改変頂いてかまいません。
- ・ 本脚本をご利用頂く際は必ず作者 (gumba1227@hotmail.com) までメールで報告頂きますようお願い致します。
- ・ 但し、練習での使用などの場合はご連絡の必要はございません。
- ・ 連絡が必要かどうかの基準は以下の通りでございます。

※連絡不要の場合

- ・ 仲間で集まつての練習でのご利用。
- ・ Skype などを通しての第三者の聴取・視聴が出来ない形でのご利用。

※連絡が必要となる場合

- ・ ツイキャスやニコ生など第三者の聴取・視聴が可能な状況下でのご利用。
- ・ 連絡を要する形でのご利用の際は、必ず作品名・作者名をどちらかに記載いただけますようお願い致します。

その他ご不明な点ございましたらお気軽に下記までご連絡下さい。

gumba1227@hotmail.com (岩本)